

# 図書館の本だな

～5・6年生 おすすめの本のリスト 2022～

## アヤカシさん

富安 陽子 作 福音館書店 913-ト

四年生よねんせいになった春はる、ケイは大学生だいがくせいのメイお婆さんのうしろに、見たことのないおじいさんがぴったりとくっついているのが見えました。ケイが「さっきのおじいさんは、どうしたの？」とたずねると、メイお婆さんは凍こおりつきました。そしておじいさんは突然とつぜんケイの目の前まへに現あらわれ、わしは妖怪変化ようかいへんげのたぐいのアヤカシだといいます。ケイとメイお婆さんにだけアヤカシが見えるということは、ふたりだけの秘密ひみつとなりました。

## ぼくたち負け組クラブ

アンドリュー・クレメンツ 著 田中 奈津子 訳 講談社 933-ク

本ほんが大好きなアレックは、授業中じゅぎょうちゅうに本ほんを読んでいて、何度も校長先生なんど こうちょうせんせいにしかられています。両親りやうしんが九月くがつから新あたらしい仕事しごとを始めるので、アレックと弟おとうとのルークは放課後ほうかごプログラムに参加さんかすることになりました。放課後ほうかごプログラムでは、所属しよぞくするクラブを決めることになっています。アレックは新あたらしく読書どくしょクラブつぐを作ることにし、だれも参加さんかしたがないように、クラブの名前なまえを<負け組クラブ>にします。

## 池の水なぜぬくの？

安齊 俊 著・絵 くもん出版 481-ア

池いけにはいろいろな種類しゅるいがあります。ふだん目めにするのは、公園こうえんの池いけや農業用のうぎょうようのため池いけです。田んぼたんぼで米こめを育てるためにため池いけに水みずをためていましたが、湖みずうみや川かわから水みずを引く用水路ひょうすいろがつくられると、ため池いけがなくても農業のうぎょうができるようになりました。すると、水ぬきみずをすることがほとんどなくなり、池いけの底そこには泥どろがたまります。また、泥どろが池いけの外そとに出でていかないと池いけがうまっていて、すむ場所ばしょが少すくなくなり、池いけの中の生きものが減へってしまいます。

# 野生のロボット

ピーター・ブラウン 作・絵 前沢 明枝 訳 福音館書店 933-ブ

海が大しけで貨物船がしずみ、新しいロボットが入った何百もの荷箱が波にのまれていきました。残った五つの箱は、島の岩場にたたきつけられ、四体のロボットがバラバラになりました。岩場にいたラッコたちの目に入ったのは、パーツが全部くっついた一体のロボットです。そのとき、一ぴきのラッコの前足が、ロボットのボタンにさわりました。するとロボットは目をあけて、「わたしの名前はロズです」とラッコに自己しょうかいをしました。

# 名探偵カッレ 危険な夏の島

アストリッド・リンドグレーン 作 菱木 晃子 訳

岩波書店 949-リ

カッレ、アンデッシュ、エヴァロッタの三人は白バラ軍として、赤バラ軍のシックステンたちと<聖像>をめぐる戦いを何年もしています。ある夜、古城で赤バラ軍との戦いを終えた白バラ軍が小道を歩いていたとき、坂道をあがってくる車がありました。三人が側溝の中に隠れて大学教授のエークルンドさんの家を見はっていると、ふたりの男たちが教授の息子ラスムスをさらっていきました。

# ノロウェイの黒牛

なかがわ ちひろ 文 さとう ゆうすけ 絵 BL出版 E-サ

むかし、ノロウェイというところに、女のひとと三人のむすめが住んでいました。ある晩、むすめたちは、どんなひとと結婚したいか話をし、上と中のむすめは伯爵や男爵と結婚したいといいますが、末のむすめはノロウェイの黒牛でいいといいました。古い詩では、ノロウェイの黒牛は身の毛もよだつ怪物とされています。そのあと、上のむすめに伯爵が、中のむすめに男爵が結婚をもうしこみました。そしてある朝、大きな黒牛がのこった末のむすめをむかえにきます。

# うちの弟、どうしたらいい？

エリナー・クライマー 作 小宮 由 訳 岩波書店 933-ク

アニーと弟のステイーヴィーは、おばあちゃんとくらしています。ママは「弟をたのむわね」といって家を出ていきました。ステイーヴィーはいたずらや、ふざけたりして、だれになにを言われても気にしません。アニーが思わず怒鳴ると、ますます荒れていきました。ステイーヴィーは三年生になり、担任はストーバー先生という若い女の人になりました。アニーはどうすればいいか、ストーバー先生に相談することにします。

# ことばハンター

飯間 浩明 著 ポプラ社 813-イ

国語辞典は、小学生用で3万数千語のことばがのっています。学校の勉強のためだけでなく、ふだん使うことばや、知っておくと会話で役立つことばを、国語辞典はたくさんのせています。辞書を作るためには、できるだけ多くのことばを集めることが必要です。そこでぼくは、街に出かけたとき、いつも看板やポスターなどの文字に注目して歩いています。辞書にのせられる、新しいことばが見つかるかもしれないからです。

# グリックの冒険

斎藤 惇夫 作 岩波書店 913-サ

シマリスのグリックは、ねえさんのフラックとかごの中にいます。ある日、グリックが外を見ていると、伝書バトのピッポーがやってきて、君の仲間は森にいますとおしえてくれました。その日から、グリックは森のことを考えるようになります。そして一週間ほどたった日、グリックはピッポーに仲間のところへ行きたいとさげびました。

# 星の王子さま

サン＝テグジュペリ 作 内藤 濯 訳 岩波書店 953-サ

飛行機がサハラ砂漠でパンクしてしまった日の晩、ぼくは人の住んでいるところから千マイルもはなれた砂地で眠りました。ところが、夜があけて目をさますと、とてもようすのかわったぼっちゃんがぼくをじろじろ見えています。そして、ぼっちゃんは「ヒツジの絵をかいて」とくりかえしいうので、ぼくは一まいの紙と、万年筆をポケットからとりだし、ヒツジの絵をかきました。